

○城真理子* 内田恵美子* 幡野暁子

(*華頂短大)

目的：內衣から発したゆかたは、今や夏のカジュアルウェアとして若者の間で人気も高く近年、多様な色・柄ものが出現し、既製品化も進んできている。また、ゆかたのみに焦点を絞った縫製や着装についての入門書が新たに出版されている。しかし、その中には伝統的きまりを無視した縫製、柄合わせや着装等が随所に見られるようになってきた。そこで、和服文化の伝承媒体としてのゆかたの現状と問題点を提示する。

方法：店頭・パンフレット・雑誌等にみられるゆかたの現状調査、入門書や解説書の検討、若者を対象としたゆかたに対する意識調査等。

結果：ゆかたは従来からの夕涼みや家庭での普段着からカジュアルな街着や、仕事着(司会・受付等)として広範に着用されるようになってきており、伝統的着装に加えいろいろな着装の提案がなされている。店頭販売では既製ゆかたが年々増加し、家庭縫製および、注文縫製ゆかたは減少傾向にある。既製ゆかたにおいては、手縫いとミシン併用からすべてミシン仕立てへと移行しつつあり、縫製における省力化が進んでいる。また、柄合せへの配慮が足りないものもみうけられるようになってきている。入門書や解説書においては、説明記述と解説図が一致しないものや、裁断、縫製面でのあやまりの記載が多くみられる。